

令和5年9月13日

各 位

一般社団法人 全国信用組合中央協会
全国信用協同組合連合会

第3回「しんくみブランド表彰」受賞先の決定について

信用組合業界の表彰制度「しんくみブランド表彰」の受賞先がこのほど決定いたしましたので、お知らせします。

今回の表彰では、全国の信用組合、協会及び信用組合役職員が取り組んだ多岐にわたる活動のなかから、大賞1先、優秀賞5先の活動が決定いたしました。

第3回「しんくみブランド表彰」受賞先

○大賞

信用組合部門	秋田県信用組合（秋田県）	人口減少・過疎化が進行する上小阿仁村を日本一元気な村へ、村と共に挑む地方創生への取組み
--------	--------------	---

○優秀賞

信用組合部門	茨城県信用組合（茨城県）	JR東日本(株)水戸支社との連携協定を活用した「地域共創モデル」の取組み
信用組合部門	大東京信用組合（東京都）	都内中小企業・小規模事業者「景況調査」
信用組合部門	第一勧業信用組合（東京都）	金融リテラシー向上への取組み
信用組合部門	西海みずき信用組合（長崎県）	まちのチャレンジスペース「ミランネ」の運営
役職員部門	広島市信用組合（広島県） 谷本 邦弘 氏	日本陸上競技連盟公認審判員として競技会の運営に参加

信用組合は、営利を目的とせず、相互扶助（共助の精神）のもとに活動する金融機関です。地域経済の活性化や社会・コミュニティの課題解決に向けた取組み、各種の社会貢献活動等、相互扶助を具現化した活動に日々取り組んでおります。

「しんくみブランド表彰」は、これら信用組合業界の諸活動を多くの方に知っていただき、信用組合の基本理念である相互扶助と存在意義をより一層訴求することを目的に、令和3年度より実施しているものです。

【本件に関する問い合わせ先】	
一般社団法人 全国信用組合中央協会 ブランドコミュニケーション部 TEL : 03-3567-2452 (平日 : 9 : 00 ~ 17 : 00)	全国信用協同組合連合会 総合企画部 TEL : 03-3562-5115 (平日 : 9 : 00 ~ 17 : 00)

【大賞】

秋田県信用組合（秋田県） 人口減少・過疎化が進行する上小阿仁村を日本一元気な村へ、村と共に挑む地方創生への取組み

秋田県信用組合は、2016年に上小阿仁（かみこあに）村と「地方創生包括連携協定」を締結し、同村と連携して、これまで地域の特産品（「食用ほおずき」・「こはぜ」）を活用した商品開発（お酒、コンフィチュール、ケーキ、パン等）および販売支援に取り組んでいる。また、商談会の出展支援やクラウドファンディングの活用提案により、販売促進・販路拡大を支援している。秋田県は全国で最も高齢化が進展しており、同村は、住民の6割近くを65歳以上の高齢者が占めるなど、秋田県の中でも特に高齢化が進んでいる。

商品企画から試作・開発段階まで共同で取り組み、これまでに特産品を活用した商品を20アイテム開発したほか、首都圏の通販会社や百貨店との成約、村内における新規雇用の創出に繋げるなど、地域活性化に寄与している。

さらに、2021年からは「上小阿仁村を日本一元気な村にする」をテーマとして、村内経営者や若手創業者を対象とした経営塾「村ムラ塾」を年4回のペースで開催している。県内企業の社長を塾長として招き、講義や企業経営者等によるパネルディスカッション、村内の名所を含む資源の活用をテーマにしたフィールドワーク等を実施するなど、村内企業の活性化に取り組んでいる。

また、同年においては、内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局が選定する、地方創生に資する金融機関等の『特徴的な取組事例』に選定され大臣表彰を受章している。

過疎化の進む地域に対して、自治体と連携して包括的・継続的な支援を行い、地域活性化を目指す取組みは、同様に高齢化が進行する他地域にも展開できることから、信用組合の取組みとして模範性が高い。

【優秀賞】

茨城県信用組合（茨城県） J R 東日本㈱水戸支社との連携協定を活用した 「地域共創モデル」の取組み

茨城県信用組合は2022年から2024年までの3年間、東日本旅客鉄道株式会社（以下「JR東日本㈱」）水戸支社と「地域活性化連携協定」を締結し、2023年に茨城県で21年ぶりに行われる全国規模の観光キャンペーンである「デスティネーションキャンペーン」を最大限利用して、事業者支援を行うとともに地域活性化に向けた取組みを実施している。

具体的には、当該連携協定に基づき、JR東日本㈱やグループ会社の鉄道資産（駅ナカ商業施設、高級スーパー、鉄道バス荷物輸送、ECサイト等）を活用した商談会の開催や、首都圏駅構内等での催事出店の機会を取引先に提供するなど、販路拡大に向けた伴走支援を展開している。2022年度においては53事業者が参加し、うち9事業者が商談成立となったほか、スーパー紀ノ國屋のPB商品としての採用や、駅ナカコンビニや商業施設等において商品が販売されるなど販路拡大に繋がっている。また、商談成立後も本部・営業店が一体となり継続した伴走支援による事業者の企業価値向上に取り組んでいる。

「信用組合」と「鉄道事業者」という今までにない異業種連携であり、互いの強み（信用組合の持つ取引先のネットワークと鉄道事業者の販路等）を活かした取組みは、新たなビジネスモデル「地域共創モデル」として、個別の事業者への課題解決に留まらず、地域全体の交流人口・関係人口の増加を見込める点で、革新性・課題解決性・模範性を備えた取組みとなっている。

【優秀賞】

大東京信用組合（東京都）

都内中小企業・小規模事業者「景況調査」

大東京信用組合では、1981年から42年間にわたり継続して、半年毎に、組合の取引先の都内中小企業・小規模事業者（製造、卸売、小売、サービス、建設、不動産の6業種）を対象とした景況調査を実施しており、2022年12月の調査においては、13,200先からサンプリングした3,213社・者からの調査結果を取りまとめている。また、調査結果は小冊子にして、経営情報として取引先および関係機関に提供している。

調査結果は、①業況・売上・収益、②販売単価、仕入単価、在庫数量、③資金繰り、借入金、④設備投資、⑤業種別の業況、売上、収益について、景気動向指数（DI）を使って推移を示しているほか、⑥経営上の問題点、⑦今期の人件費の増減、⑧今期の残業時間の増減、⑨当面の経営施策について割合で示しているもので、地域の中小企業・小規模事業者の景況や諸課題、経済動向等について、一定時期ごとに時系列的に実態を把握し、地域金融機関として迅速かつ的確な施策に結びつけることを目的とする。

調査対象となる中小企業・小規模事業者は、行政等が実施する調査における中小企業より小さな企業・事業者であり、他にない中小企業・小規模事業者の調査結果となっている。

面接による聞き取り調査を行うことで回答率は100%となっており、取引先の方々が実際に肌で感じている景況感などを幅広く把握することができ、常に変化する取引先の景況や抱える諸課題等への解決の一助となっている。

【優秀賞】

第一勧業信用組合（東京都） 金融リテラシー向上への取組み

第一勧業信用組合では、小学生から社会人までの各年齢層に合わせた幅広い世代に対して、金融経済教育の提供を行っている。

具体的には、インターネットラジオ（58本を配信）やYouTubeチャンネル「かんしんテレビ」（39番組を配信）を通じて、金融知識の提供を行っているほか、お金の機能や金融機関の役割および信用組合の仕事や社会的意義について、各年齢層に合わせた金融教育を実践している。

小学生に対しては、延べ71の学校へ「お金に関する書籍」を寄贈しているほか、6年生向けには「おカネのはなし」をテーマに講義を行っており、また、中高生に対しては、営業エリアの内外を問わず、様々な学校で講義やインターンシップの受け入れを毎年行っている。

大学生や大学院生に対しては、「金融論」「ファイナンス論」の授業の中で信用組合の具体的な取組みについて講義を行っており、社会人に対しては、エリア外の行政機関（三重県松阪市・宮崎県延岡市）からトレーニーの受け入れを行っている。

その他、明海大学と連携協定を結び、当組合の取引先企業の事業再生への取組みを共同で行うなど、学生に対して経営課題解決の実務の機会も提供している。

昨今、金融教育の重要性は強く主張されており、幅広い世代において、金融リテラシーの向上を目指す本取組みは、時代の要請に即した取組みであるといえる。

【優秀賞】

西海みずき信用組合（長崎県） まちのチャレンジスペース「ミランネ」の運営

西海みずき信用組合では、2020年より廃止店舗を利活用し、新たな挑戦をする若者や市民の交流活動を支援するチャレンジスペースとして「ミランネ」（長崎県の方言「やってみらんね」から大学生が命名）の運用を開始した。

具体的には、地域の大学生にコーヒーの淹れ方とスモールビジネスの秘訣（喫茶店経営のノウハウや集客戦略等）を教える半年のビジネススクール「佐世保コーヒースクール」、プログラミングやデジタルツールを使って街や自分の暮らしを楽しくする「プロトタイプ勉強会」等のプロジェクトが「ミランネ」の企画として進められており、学生が企業との交流を深め、新たなことに挑戦できる環境が作り上げられている。

また、公益性の高い「子ども食堂」、「チャイルドライン」、「認知症カフェ」等を運営する団体にも低料金でスペースを提供することで、「ミランネ」を訪れた学生や企業などとの間で新しい交流が生まれている。

地方には、若者にとって新しいことに取り組める環境や仲間が必ずしも多くないことや、コミュニティを超えた交流が少ないことが課題として存在していた中で、チャレンジスペースという切り口で企業や学生が交流する場を提供することで、若者が新たなことに挑戦し、周囲からの応援がもらえる環境を作り上げることに寄与している。

【優秀賞】

広島市信用組合（広島県）
谷本 邦弘 氏

日本陸上競技連盟公認審判員として
競技会の運営に参加

谷本邦弘氏は、1991年より32年間、スポーツ振興の一環として、陸上競技の公認審判員を務めている。これまで様々な競技大会で経験を積み上げるなど、大きな大会としては、第12回アジア競技大会、全国都道府県対抗男子駅伝、第51回国民体育大会、第32回全国身体障害者スポーツ大会等に参加している。

選手と直に接する競技審判のほか、選手の記録を整理する記録情報処理、選手紹介と記録を表示する電光掲示板の係を務め、アジア大会では電光掲示板のオペレーターを務めた。

また、10年以上「B級公認審判員」を務め、各加盟団体でその実績や技能を審査し合格した者が認められる、「A級公認審判員」に指定されている。

また、広島市小学生駅伝大会や広島県スポーツ少年団陸上大会、広島県小学生陸上競技大会では、毎年、審判員や監察員を務めており、大会を通じた地元少年少女の健全育成並びに地元陸上競技人口の基盤となる当世代の支えとなっており、コミュニティと一体となった活動といえる。

以 上

< 参考 > 第3回「しんくみブランド表彰」について

1. 目的

信用組合、協会（地区協会及び都道府県協会）および信用組合役職員が取り組んだ社会貢献活動、しんくみの日週間活動ならびに信用組合の本業に付随した地域経済の活性化に向けた取組み等、信用組合の基本理念である相互扶助（共助の精神）を具現化した活動のうち、趣旨や成果につき優秀なものを表彰する。

これにより、信用組合業界の諸活動を内外に認知させるとともに、ブランドイメージの向上を図る。

2. 表彰対象

- (1) 信用組合部門 信用組合、協会（地区協会及び都道府県協会）
※信用組合の営業部店単位での活動も含む。
- (2) 役職員部門 信用組合役職員
※信用組合内サークル・グループ、部署単位の活動も含む。

3. 選考方法

しんくみブランド表彰選考会にて厳正に選考のうえ、表彰先候補を選定し、全信中協理事会で表彰先を決定する。

4. 選考のポイント

以下の項目を総合的に判断する。なお、活動の内容がすべての項目に該当しなくとも、特定の項目において顕著な取組みが認められる場合、評価の対象とする。

- ①継続性、②革新性、③課題解決性、④コミュニティとの一体性、⑤話題性、⑥模範性

5. しんくみブランド表彰選考会 委員

- 見城 美枝子 青森大学 名誉教授
- 佐藤 雄二郎 株式会社共同通信社 元代表取締役社長
- 中村 健 株式会社全国信用組合新聞社 顧問
- 三村 一夫 一般社団法人ユニバーサルコミュニケーションデザイン協会 常務理事
- 北村 信 全国信用組合中央協会 理事長、全国信用協同組合連合会 理事長
- 濱田 秀夫 全国信用協同組合連合会 専務理事
- 丸藤 保彦 全国信用組合中央協会 常務理事
- 森貞 隆之 全国信用協同組合連合会 常勤理事

※所属は令和5年9月現在、敬称略、上4名の外部委員は五十音順